SATSUMA×WORK

さつま×しごと

Vol.21

保育士×蓑牟田 律子

蓑牟田（みのむた） 律子（りつこ） さん(74)

湯田地区出身。結婚を機に中津川地区に移り住み、恵光保育園で働きはじめる。平成22年からは同園の園長を務め、現在は理事長として園を運営。地域と協力しながら昨年11月に開いた子ども食堂「なかっこカフェ」で子どもと高齢者の交流の場を提供している。

▼中津川地区にある恵光保育園。子どもたちの元気な声が聞こえてきます。同園の理事長を務めているのが蓑牟田律子さん。園児からは「理事長先生」と親しまれています。

▼蓑牟田さんが保育の道に進んだきっかけは「手に職をつけなさい」という母の言葉で、高校生のときに保母資格の勉強を始めました。宮之城高校を卒業後は宮之城町役場で働きながら勉強を続け、保母資格を取得。結婚を機に役場を退職すると中津川地区に移住し、義父が運営していた同園で保母として働き始めました。

「保育の仕事で一番大切なことは、子どもたちを保護者から預かった状態でそのままお返しすること」と語る蓑牟田さん。現在も保育の現場に立ち、子どもたちに教えるためにと取得した書道師範の腕前を活かしながら、温かい眼差しで字の書き方を指導しています。

▼また、主任児童委員を務めていた蓑牟田さんは、委員の研修で子ども食堂のことを知ります。「それぞれの地域に合わせた子ども食堂を実践してみてください」という講師の言葉を受け「子どもと高齢者がふれあえる場として子ども食堂を作りたい。それなら私にできる」と一念発起。自身が所属する地域の婦人会「ゆめはな会」や中津川公民館と協力し、令和3年11月に子ども食堂「なかっこカフェ」を始めました。小学校の土曜授業に合わせ、毎月第2土曜日に中津川交流館で活動しており、毎回メニューを変えながら地域の方に昼食を提供しています。蓑牟田さんは「子どもたちとのふれあいが私の元気の源。高齢者も子どもたちと交流することで元気に過ごせるはず」と笑顔で語り、交流の場をもっと充実させたいと意気込みを見せます。

▼「昔から行動する前に考え込んだりするのが苦手。『泣こよかひっ飛べ』の精神でやってきました。これからやりたいことがたくさんあってワクワクしています」と語る蓑牟田さん。子どもたちと高齢者の笑顔のため、蓑牟田さんの挑戦はまだまだ続きます。

大勢の昼食を準備する蓑牟田さん

子どもたちが作った
なかっこカフェの看板